

環境面と飼養管理面から
暑熱対策に取り組みましょう

家畜が暑さを感じる温度は、牛で約19度、豚で約22度、鶏で約26度といわれています（農林水産省資料より）。暑熱被害を防ぐためには、気温がこれらの温度を超える前から事前に備えておくことが重要です。

環境面からの対策

畜舎外対策は、樹木や遮光ネット、グリーンカーテンの設置、屋根、壁等への断熱材の設置や石灰乳の塗装などがあります。また、畑によく生える雑草のアカザを、鶏舎周りに移植した養鶏場では、夏場の暑熱による死亡羽数が20分の1近くまで減少した例もあります。



アカザ

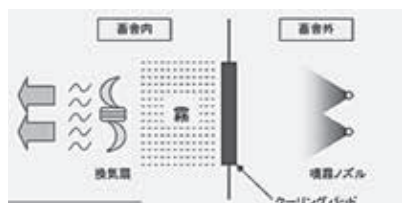
畜舎内の対策は、散水や扇風機による送風で直接畜体の体温を下げる方法や、クーリングパッドを利用した方法があります。

飼養管理対策

環境面の対策と併せて、飼養管理対策を組み合わせることも重要です。涼しい時間帯に飼料を給与する事や、必要に応じてビタミンやミネラルを給与して栄養不足を補うことが採食量の増加につながり、成績の改善が期待できます。暑熱対策は、生産性が低下してからはなく、早めに行うことが重要です。家畜の様子をこまめに観察し、暑熱によるストレスの軽減に努めましょう。



石灰乳塗布



クーリングパッドの仕組み